

在宅療養支援 (前回までの意見)

(これまでの調整会議でのご意見)

- ・キーパーソンは内地にいることが多く、家族と島と転院先の病院との間で十分な退院調整を行うことが難しい。(三宅島)
- ・患者の状態を正確に把握できないまま、島に戻ってきてしまい、その後の対応に苦勞することがある。(新島)
- ・広尾病院から退院する場合、転院ではなく自宅退院扱いとなるため、看護サマリーがついていないが、島での在宅医療の提供方法を考えるためにも看護サマリーを提供して欲しい。(神津島)
- ・内地で入院中にADLが落ちると、介護認定等を行う体制を整えるところから対応しなければならないため、逐一情報提供が欲しい。(青ヶ島)
- ・障がいを持つ子供を島で診ることが増えてきた。(小笠原)

(その他の意見については、参考資料1参照)

在宅療養支援 (意見交換)

(テーマ)

島内における在宅療養支援の取組について

《視点》

- ・島内で在宅療養支援を行うにあたっての課題
(島内の医療・介護資源の面から／島しょ基幹病院等との連携の面から)
- ・島内での医療－介護の情報共有の方法について
- ・今後、在宅療養を希望する患者が増えた際の対応について

▶参考資料 2～6

- ・ 町村アンケート結果 (退院支援・在宅医療)
- ・ 在宅療養に関するデータ (平成26年3月31日現在)
- ・ 介護資源の状況 (平成29年12月1日現在)
- ・ 在宅医療・介護連携推進事業取組状況 (平成29年7月末現在) 抜粋
- ・ 在宅医療・介護連携に関する相談支援窓口一覧